

イースター（復活祭）の楽しみ

友人のイネスさんはイースター・カードと共に、イースター・オーナメントを封筒に入れて送ってくれました。このオーナメントはオリーブの木工細工で、透かし彫りになっていますから、造作と共に光も楽しめるものようです。ドイツではこれらを木の枝や、壁や、窓に飾って、子どもの時から、イエス様を心に刻みつけ、イースターをお祝いするのでしょうか。

最後の晩餐を共にし、足を洗って下さったイエス様が「鶏が二度鳴く前に3度、私のことを知らないと言うだろう」とペトロに言われました。夜が明けようとする頃までに、ペトロが自分の身を庇った悲しい事件を思い出します。鶏の鳴き声は、ペトロの裏切りと悔恨の象徴でもあるでしょう。この行為をどのように償うことができるでしょうか。ペトロはただ泣くだけでした。そのペトロをイエス様はよく御存じで、「しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(ルカ22:32)と事前にペトロを慰め、励ましておられるのです。鶏もイースターの印になっています。



鶏



十字架

アニウス・デイとして知られる神の小羊は、ユダヤ教の贖罪の捧げ物の伝統から生まれた、イエス様の十字架の死を象徴する姿です。小羊は穢れを知らない、罪のない存在の象徴でもあります。私たちの罪が、生贄となった小羊が流した血が、命の代償となって赦される、という感謝の信仰の表現です。

イースターには、子どもたちのお楽しみとして卵探しゲームがあります。ゆで卵を色紙で包んだり、綺麗な絵付けをした卵や、卵型のチョコレートを、どこかに隠しておいて、それを捜すのです。卵は新しい命の誕生の象徴です。時々ウサギも登場しますが、これもきっと子沢山という、誕生の豊かさの象徴でしょう。



神の小羊



小鳥と卵

ギリシャ文字のX(キー)とP(ロー)を重ね合わせた形はラバルム(Labarum)、あるいはキー・ローと言われています。これは、ローマ帝国正規軍の紋章の一つで、キリスト教を公認したコンスタンティヌス1世により制定されました。ギリシャ語でキリストと書くとΧΡΙΣΤΟΣ, または Χριστόςとなり、最初の2文字がX、Pになります。それを軍隊の紋章にしたのです。ローマ帝国は滅びましたが、この紋章は最も古い時代から、イエス・キリストの象徴となっています。ギリシャ文字のA(アルファ)とΩ(オメガ)もイエス・キリストの象徴です。黙示録の最初に神である主、今おられ、かつておられ、やがて来られる方、全能者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」(黙示 1:8)と、今共にいて下さるキリストは、世の初めから存在し、再臨される、全能者、すべてを網羅する方として賛美しています。再び、最後にわたしはアルファであり、オメガである。最初の者にして、最後の者。初めであり、終わりである。(黙 22:13)とイエス様が再臨され、神の救いを成就し、歴史を完成する方として記しています。



ラバルム



アルファとオメガ